

薬害HIV感染被害者のみなさま

「がん検診」 を受けましょう

がんはとても身近な病気です。
がん検診を積極的に受けましょう。
また、生活習慣を見直し、がんを予防
することも重要です。

禁煙や節酒を心がけましょう。

我が国の薬害 HIV 感染被害者では
年間約21人 (2.99/100 person-years)
(1人あたり年間3%の確率)に
がんが発症すると推測されます。
がんは早期発見・早期治療の時代です。
「がん検診」を受けましょう。

出典：Non-AIDS-defining malignancies in
Japanese hemophiliacs with HIV-1 infection,
Global Health & Medicine. 2019; 1(1):49-54.



ホームページを開設し
ました。ご覧ください。



<https://square.umin.ac.jp/kenko/>



研究代表者のことば

東京大学医科学研究所

四柳 宏

血液凝固因子製剤によるヒト免疫不全ウイルス (Human Immunodeficiency Virus: HIV) への感染が明らかになってから 40 年余りが経ちました。

感染された方の年齢があがるに従い、新たな病気が問題になって参りました。

その一つが『がん』です。

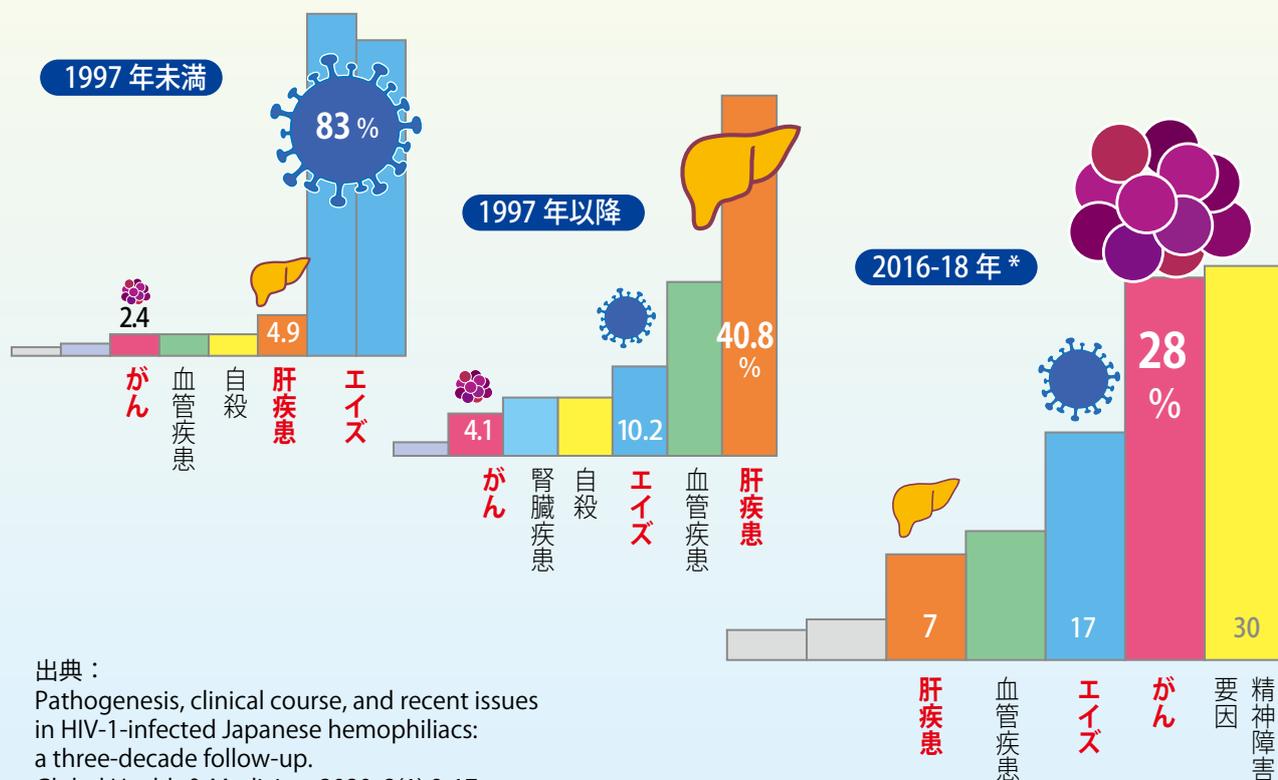
以前は、『がん』として最も多いのは C 型肝炎ウイルス (Hepatitis C Virus: HCV) による『肝臓がん』でした。しかし最近では『肝臓がん以外のがん』にかかられる方も報告されています。

『肝臓がん』も含めた『がん』の対策を行うために、厚生労働省の研究班が 2021 年春に発足しました。研究班では、がんの早期発見・早期治療などいろいろな情報をお伝えしたいと考えております。このニュースレターが皆様のお役に立つことを願っております。

薬害 HIV 感染被害者の死亡原因の推移

死亡の原因は大きく変化しています。

1997 年以前は、エイズ関連の日和見感染症、及びエイズ関連の悪性腫瘍が多く、2010 年前後は C 型肝炎ウイルス関連の肝硬変と肝細胞癌の割合が増え、そして最近ではエイズに関係ない悪性腫瘍の割合が増えてきました。



出典：
Pathogenesis, clinical course, and recent issues
in HIV-1-infected Japanese hemophiliacs:
a three-decade follow-up.
Global Health & Medicine. 2020; 2(1):9-17
2つの統計結果を比較しやすいように改変

*2016-18年は、薬害 HIV 感染被害者を含む全ての HIV 感染者が対象です。

厚生労働行政推進調査事業費 (エイズ対策政策研究事業)

非加熱血液凝固因子製剤による HIV 感染血友病等患者に合併する腫瘍への包括的対策に関する研究

研究代表者 東京大学医科学研究所 先端医療研究センター感染症分野 四柳 宏

URL : <https://square.umin.ac.jp/kenko/> Email : kenko@ims.u-tokyo.ac.jp